

(様式6-3)

研修等 報告書

平成29年11月 14日

三田市議会議長 今北義明様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	[Redacted]	印
		議員名		檜田 充
参加者氏名	印			
講演会等研修名	TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館 岐路に立つ図書館～3つの視点から進化の方向性を探る～			
研修事項	第1講 今、ここからすべての場所へー図書館のクオリア 茂木健一郎 第2講 図書館と自治体政策の再生 宮崎淳 北大大学院教授 第3講 図書館という「メディア」の可能性 湯浅俊彦 立命館大学教授			
日 時	平成29年11月7日(火曜日)～平成29年11月7日(火曜日)			
場 所	横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜			
所 見	第1講では、人口減やそれに伴う予算減への対応や漫画・アニメ世代への対処等について目を見張るような話が聞けた。また、司書との会話が子ども育てるとの話に今の三田の図書館教育の進もうとしている道に確信が持てた。 第2講では自治体政策の変化により、情報と人が結びつく創造性の接点としての図書館の重要性が増していることと、民間化による公共サービスの効率化と進化の持続性の確保がされていくが、同時にリスク対応への重要性を認識した。 第3講は、情報化・多機能化等大きく進歩する図書館が今後目指すべき道を指し示された。			
添付資料	・研修会プログラム(写) ・ ・ ・			

6 添付書類(講演会内容のパンフレット等)

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

# 岐路に立つ図書館

=3つの視点から進化の方向を探る=

図書館流通センター・図書館総合研究所

## 【プログラム】

13:00-13:10 開会・主催者挨拶

13:10-14:20 今、ここからすべての場所へー図書館のクオリア  
茂木健一郎（脳科学者）

14:25-15:35 図書館と自治体政策の再生  
宮脇 淳（北海道大学大学院法学研究科教授）

15:40-16:50 図書館という「メディア」の可能性  
湯浅俊彦（立命館大学大学院文学研究科教授）

17:00 閉会

【日時】 2017年11月7日(火)13:00-17:00

【会場】 パシフィコ横浜 アネックスホール 202（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

- 【資料】
1. 図書館と自治体政策の再生〈宮脇 淳〉 (P 4-)
  2. 図書館という「メディア」の可能性〈湯浅俊彦〉 (P12-)

## 【Talking Points】

# 岐路に立つ図書館 =3つの視点から進化の方向を探る=

「地方創生」等の流れの中で、図書館にスポットの当たる機会が増えてきました。それとともに、図書館に求められるものも、より多様かつ高度なものとなりつつあります。そうした社会からの要請や期待に応えながら、図書館が新たな進化をとげていくには何が必要でしょうか。今回のセミナーでは、脳科学、行政学、情報学の3つの視点から、これからの図書館の「中身」のあり方を中心に、進化の方向を探ります。

### 第1講：『今、ここからすべての場所へー図書館のクオリア』〈茂木健一郎 脳科学者〉

時間と空間を超えて、ネットワークの所産たる書物等を媒介に、さまざまなネットワークのつなぎ手となる図書館。「今、ここ」「脳が喜ぶ」等をキーワードに、これからの時代に求められる図書館の本質を探ります。

### 第2講：『図書館と自治体政策の再生』〈宮脇 淳 北海道大学大学院法学研究科教授〉

従来の政策展開が蓄積したリスクに加え、新たな環境がもたらすリスクにも対応する中で、自治体政策をいかに再生していくか。自治体機能、地域政策、行政経営等の視点が強く求められている図書館を例に考えます。

### 第3講：『図書館という「メディア」の可能性』〈湯浅俊彦 立命館大学大学院文学研究科教授〉

情報化、多機能化、民間化等も含め図書館という「技術」が進展する中で、図書館はどこをめざしていくのか。その「中身」が根本から問われる今日、図書館という「メディア」のこれからのあり方を大胆に提起します。

## 【講師プロフィール】

茂木健一郎 (もぎ・けんいちろう) 脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員  
東京大学理学部・法学部卒業、大学院理学系研究科修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学研究員を経て現職。「クオリア(感覚の持つ質感)」をキーワードに脳と心の間を研究。作家、ブロードキャスター等としても幅広く活躍。著書に、『今、ここからすべての場所へ』(筑摩書房、第12回桑原武夫学芸賞)、『脳と仮想』(新潮社、第4回小林秀雄賞)、『脳を活かす勉強法』(PHP 研究所)等。

宮脇 淳 (みやわき・あつし) 北海道大学大学院法学研究科教授、同 公共政策大学院教授  
参議院事務局、経済企画庁、(株)日本総合研究所主席研究員等を経て現職。内閣府地方分権改革推進委員会事務局長、総務省第3セクター等のあり方研究会座長、下水道財政のあり方研究会座長、文科省中央教育審議会専門委員等を歴任。著書に、『自治体経営リスクと政策再生』(東洋経済)、『政策思考力基礎講座』(ぎょうせい)、『創造的政策としての地方分権』(岩波書店)等。

湯浅俊彦 (ゆあさ・としひこ) 立命館大学文学部教授、同 大学院文学研究科教授  
大阪市立大学大学院創造都市研究科修了、博士。夙川学院短期大学准教授等を経て現職。日本出版学会副会長、日本ペンクラブ言論表現委員会副委員長。著書に、『大学生が考えたこれからの出版と図書館』『デジタルが変える出版と図書館』(以上出版メディアパル)、『出版流通合理化構想の検証』『日本の出版流通における書誌情報・物流情報のデジタル化とその歴史的意義』(以上ポット出版)等。